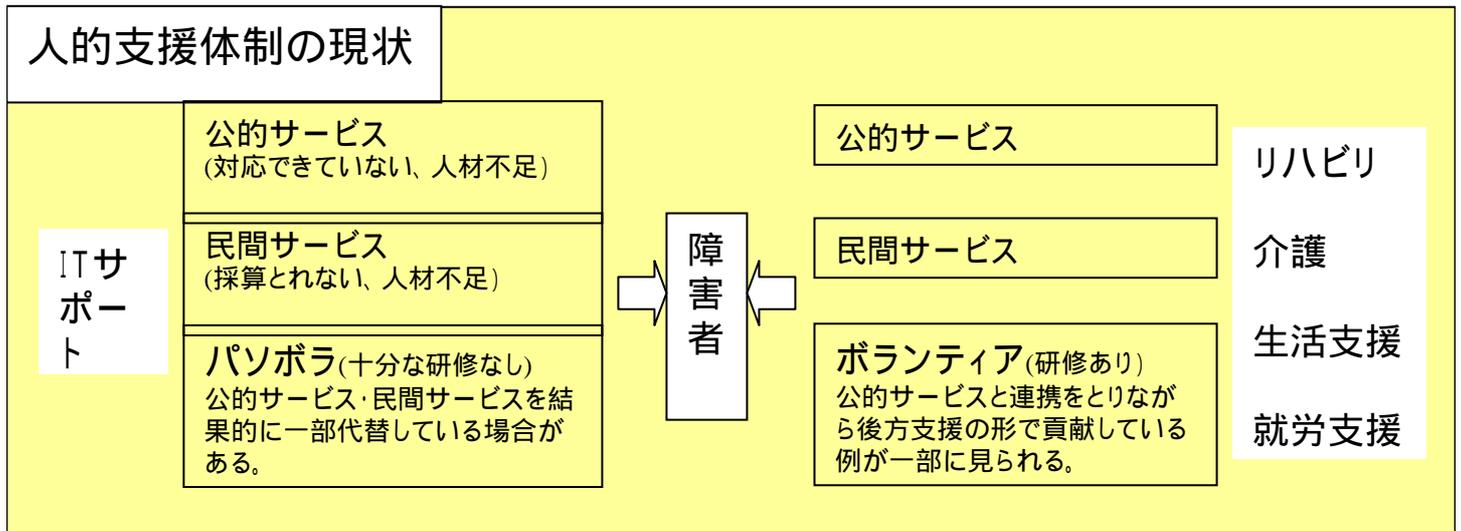


障害者のIT利活用支援の現状と課題

資料1 - 3



現在の支援の課題

パソコンボランティアのみでサポートを行う場合、次のような壁にぶつかる。

1) 適切な機器の選択や調整

- * 障害状況にあった支援機器の選択やサポート方法の検討の際に、専門的な知識が不足することもあり、特に医療的な見地からの判断がくだせず、困惑する。
- * 支援機器についての商品知識が少なく、どれを薦めてよいのか迷う場合がある。

2) サポート範囲と責任

- * OSや支援ソフト同士の相性など、システム上の問題は、ボランティアだけでは正確な判断ができず、どこまでサポートしてよいか判断できない。
- * パソコン、障害者向けソフト、支援機器などは高額のため、その後の責任を考えると、購入にかかわる助言が困難である。
- * 助言のために、支援機器や支援ソフトについて事前に勉強するには、個人の時間と費用を多く必要し、ボランティアには負担が大きすぎる。

3) 制度面

- * 障害者対象の給付・助成制度は、自治体などが独自の制度を設けている場合があり、制度の専門家ではないので、正確な助言がむずかしい。
- * 給付・助成の申請の際に依頼者の所得額などのプライバシーに立ち入ることができず、援助がむずかしい。

4) 購入相談

- * 支援機器や支援ソフトの購入には、障害に対する知識と機器や製品に対する知識や正確な情報が必要である。日常生活用具給付や助成制度などとの絡みなどもあり、ボランティアが関わってよい部分と、関わるべきでない部分の境界の判断がむずかしい。

参考資料:
練馬ばそぼらんぱ
ソボラAtoZ